

三重県旅館ホテル生衛組合木村理事長に関する新聞記事について

三重タイムズ(令和3年4月2日号)



コロナ禍で経営維持に四苦八苦する旅館ホテル業界。その中で、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長として積極的に観光振興に取り組んでいる。令和2年4月に観光事業振興功労で旭日双光章を受賞した。「再度の緊急事態宣言でピンチですが、なんとか業界で結束して乗り切りたい」と力強く話す。今年1月ブラザ洞津(津市新町)で行われた赤羽一嘉国土交通大臣との意見交換会では、業界が感染予防と観光客受け入れに細心の注意を払い懸命に自助努力している現状を報告し、「GOTOトラベルの復活など公助」による需要喚

三重県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長
伊勢志摩・磯部わたかの温泉「福寿荘」代表取締役社長
木村 圭仁朗さん(80)



安心・安全、環境に優しい旅館に

起策の後押しを」と強く訴えた。

省エネとCO2排出抑制に取り組むため高効率ヒートポンプの導入に踏み切った。

を張る。

3月23日(火)三重テレビ三重県応援団にも登場し、伊勢志摩の魅力をしかりとアピールした。

新型コロナウイルス感染症対策で緊急事態宣言を受け、1カ月休業を余儀なくされたが、この間に宴会場の改装、空気清浄機の備え付けなど、徹底した防疫体制と安全対策を実施した。今年2月には

志摩市渡鹿野島で経営する「観光旅館・福寿荘」(客室63)は2021年のプロが選ぶ日本のホテル旅館100選にも選ばれた。

旅館経営は父から継いだ2代目。絵描きだった父英さんが、風光明媚(めいび)な渡鹿野島に住み着いた。釣り客相手の旅館「福寿荘」(客室10)を建てたのが始まり。

昭和34年(1959)10月、伊勢湾台風の襲来で、旅館は半壊状態で立

「秋のGOTO事業では、客の戻りが三重

県は最も早く。11月は対前年比120~130%を記録。GOTO事業で感染拡大は県下の場合あり得ません」と胸

て直しに奔走。進学をあきらめて高校を出てから直ぐ、旅館の厨房に入った。昭和57年(1982)代表取締役社長に就任。着々と経営の近代化、業容拡大に取り組んできた。平成9年に温泉開発に成功し「福寿の湯」を開湯。地下1300メートル湧出する飲泉可能な源泉。全室露天風呂付き客室の別館「はいふう」(客室26)、東日本東北大地震災害支援宿泊施設「海辺のホテルはな」(客室30)と異なるコンセプトの旅館を開業して、幅広い世代から評価を得ている。来客は女性の方が多く、3~12歳の子どもの比率が2割近く、近隣のテーマパークの影響もあって家族連れが大きなウエイトを占めている。

悪名を全国に届かせたが、平成になると下火になった。「離島ということ、珍奇に取り上げられたのは残念だ」と嘆き、最近のネットによる興味本位の誤った風評には怒りを隠さない。「JTB宿泊アンケート、じゃらんnetクチコミ、楽天トラベルのお客様の声など実体験に基づいた情報をご覧いただきたい。私にとって渡鹿野島は生まれ育った島です」と誇る。

平成28年(2016)伊勢志摩サミットの開催以来、関東からの客が増大した。今年には志摩市などで開催予定の「島サミット」に期待を寄せる。安全、安心、環境に優しい新時代の観光振興をめざし夢は尽きない。

「秋のGOTO事業では、客の戻りが三重

福寿荘 志摩市渡鹿野町517、電話0599(57) 2711、メール info@hukuzyuso.co.jp

昭和の終わりから平成にかけて、週刊誌に「売春島」と書き立てられて

福寿荘 志摩市渡鹿野町517、電話0599(57) 2711、メール info@hukuzyuso.co.jp

福寿荘 志摩市渡鹿野町517、電話0599(57) 2711、メール info@hukuzyuso.co.jp

三重タイムズは中日新聞販売店から金曜日配布

(配布地域)津市(旧久居市・安芸郡・志保町)松阪市(嶺野・三雲町)

福寿荘 志摩市渡鹿野町517、電話0599(57) 2711、メール info@hukuzyuso.co.jp